

INFLUENZA QUESTION & ANSWER

キットを使わずに，インフルエンザウイルス感染と普通のかぜを臨床的に見分ける方法がありますか。

岩城紀男

日本臨床内科医会インフルエンザ研究班特任理事
岩城内科医院院長

いわゆるかぜは，パラインフルエンザウイルス，アデノウイルス，ヒトメタニューモウイルス，RSウイルスなどにより引き起こされ，5～7日の潜伏期間ののち鼻水，咽頭痛，咳の症状がみられますが比較的症状は軽いです。発症は緩徐で，発熱は38℃以下にとどまることが多く，通常筋肉痛，全身倦怠感などの全身症状を欠きます。

これに対しインフルエンザは，毎年12～4月の冬季流

行期にA型またはB型インフルエンザウイルスの感染を受けて1～3日の潜伏期間を経て突然発症し，学校，家庭，職場，施設内で感染が広がります。症状は38～40℃の高熱と激しい咳などの上気道炎症状や全身症状がみられ，Montoらはこの咳と発熱がインフルエンザの診断に有用であると報告¹⁾しています。われわれの日本臨床内科医会インフルエンザ研究によれば，65歳以上の高

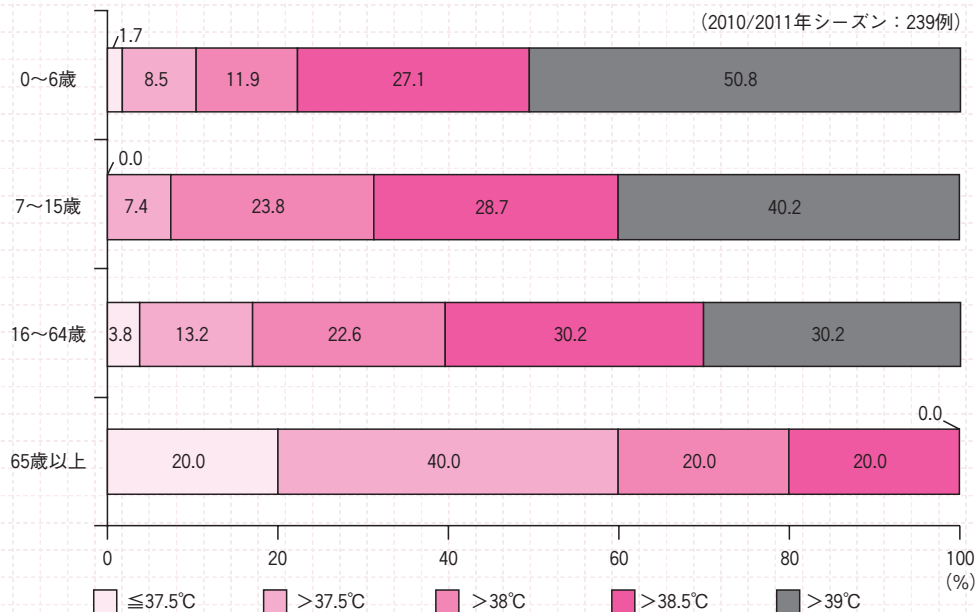


図1 B型インフルエンザの最高体温(2010/2011年シーズン)

最高体温(罹患中最も高い体温)が38℃超，39℃超の割合は，小児に比し成人ではやや少なく，37.5℃以下の症例が65歳以上では他の年齢層と比較して多い。

(日本臨床内科医会インフルエンザ研究班 編. インフルエンザ診療マニュアル 2016-2017年シーズン版(第11版). 東京:日本臨床内科医会; 2016より引用)

Key Words ▶ インフルエンザの症状 かぜとの違い 全身症状 高齢者の発熱